

園芸生産学特論 I (2単位)

担当者氏名 小池安比古

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

前期課程においては、これまでの学部の諸講義・実験・演習や卒論研究で得られたことを一層深化させ、園芸作物の効率的な高品質・安定生産の展開を目指して、生産・技術上の問題点や研究成果に関する高い学識を磨くと同時に、実学的で独創的な修士論文研究の展開を図る園芸生産学特論 I では研究のあり方などに加え、生産および技術上の問題点に関する高い学識を磨くことを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

園芸学 _____ 園芸研究 _____ 園芸生産 _____ 高品質生産 _____
 安定・持続生産 _____ 省力的生産 _____ 心身の健康 _____ 環境制御 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	園芸と園芸学	園芸の歴史、園芸作物の生産と消費	本講義のねらいは、前期課程で実学的・独創的研究を展開するために、主に園芸生産における現在の諸問題点などを理解する。
2	園芸作物の種類と分類	形態分類と APG 分類、園芸的分類、主な科の性状	
3	園芸作物の形態	栄養器官の形態、生殖器官の形態	
4	園芸作物の生理①	発芽と休眠、光合成、花芽形成と生殖、種子の形成果	
5	園芸作物の生理②	実の発育、老化と細胞死、水と無機栄養	
6	園芸作物の生理③	植物ホルモン	
7	園芸作物の育種方法	育種技術の種類とその実例	
8	園芸作物の品種改良	品種改良の方法とその実例	
9	園芸作物の繁殖方法	種苗の繁殖方法	
10	園芸作物の栽培管理①	果樹(落葉果樹、常緑果樹)の栽培管理	
11	園芸作物の栽培管理②	野菜の栽培管理	
12	園芸作物の栽培管理③	花卉の栽培管理	
13	園芸作物の鮮度保持	鮮度保持の考え方とその技術	
14	園芸生産と環境保全	園芸作物の環境保全機能について	
15	これからの園芸生産	生物農薬の利用、室内園芸	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

新園芸学全編/園芸学会/養賢堂(1998年)、Horticulture in Japan 2006/園芸学会/中西印刷(2006年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

課題に対するレポートの提出と発表、授業中の質問に対する回答等によって評価する。

◆オフィスアワー

毎週金曜日の午後、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

毎講義時に資料を配布する。